

大会レギュレーション

2018/05/31 新幕レギュレーション制定

2018/08/17 シーズン2に伴う改訂

2019/06/07 シーズン4に伴う改訂

2019/12/06 シーズン5に伴う改訂

2020/02/01 季節戦制定に伴う改訂

2020/09/23 シーズン6に伴う改訂と賞品の取り扱いに関する明文化（次の改訂まで、改定箇所は赤字で表記）

本文について

本文は『新幕 桜降る代に決闘を』シリーズを用いた公式、準公式、公認イベントで大会を行う際のルールを記載したものです。ひとつ前のシリーズである『桜降る代に決闘を』（『第二幕』を含む）を用いる場合は、そちらのレギュレーションに準拠しますのでご注意ください。

人数規約

参加者

大会は参加者が4人以上の場合のみ成立します。

団体戦大会は参加者が24人以上かつ3の倍数の場合のみ成立します。参加者は何かしらの方法で3人一組のチームを作成し、チーム内のプレイヤーの間で大将、副将、三将を定めてください。

審判

大会には最低1人の審判が参加者とは別に必要です。但し、参加者がちょうど4人となる場合に限り、審判は参加者を兼ねても構いません。団体戦大会では審判は参加者を兼ねることはできません。

大会形式

運営方法

大会の形式は原則的にスイスドローとなります。スイスドローについてご存じない場合は、以下のアドレスをご参照ください。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B9%E3%82%A4%E3%82%B9%E5%BC%8F%E3%83%88%E3%83%BC%E3%83%8A%E3%83%A1%E3%83%B3%E3%83%88>

但し、事前の合意があれば総当たり、シングルエリミネーション、ダブルエリミネーションなどの別の形式にしても構いません。その場合はイベントの申し込みに際し、その旨をコメントに記載してください。

使用できるメガミについて

大会で使用できるメガミを定める規格として完全戦と季節戦があります。完全戦では全てのメガミが使用できます。季節戦では7柱のオリジン版メガミが使用でき、3か月単位で使用できるメガミが切り替わります。2020年9月から11月に使用できるメガミは以下の通りです。

ユリナ、ヒミカ、トコヨ、オボロ、ユキヒ、ハガネ、ハツミ

完全戦を選択したうえで、大会ごとに使用できるメガミを制限するルールを定めても構いません。その場合はそのルールをすべての参加者がイベントの開始前に確認できるようにしなくてはなりません。

使用できるカードについて

大会で使用できるカードはシーズンならびにそれに伴うカード更新と禁止改訂にて管理されています。ある拡張が一般店舗で発売されてから次の拡張が一般店舗で発売されるまでをひとつのシーズンと定めます。

『新幕』シリーズにおける基本セットから一般店舗で発売されている最新の拡張までの全てのカードが使用できます。

カードの更新は最新の拡張が一般店舗で発売され、シーズンが移り変わると同時に適用されます。あるカードに対してカードの更新が行われた場合、更新前のカードは以降のイベントでは読み替えて用いることとなります（原則的には更新後のカードをご利用ください）。

禁止カードは毎月の第一月曜日での禁止改訂のたびに更新され、直ちに適用されます。禁止カードとして定められたカードは眼前構築ならびに桜花決闘において存在しないものと扱います。全体に対して定められた禁止カードは常に、特定の組み合わせに対して定められた禁止カードは双掌繚乱で特定の組み合わせを宿している場合に限り、眼前構築ならびに桜花決闘において存在しないものと扱います。シーズンが移り変わると同時に禁止カードは更新され、全体に対して定められた禁止カードは全て解除されます。

参加者の持ち物

参加者は以下のもの全てをご持参頂く必要があります。

- ボード2枚
- 桜花結晶36個
- 集中力カード1枚
- 自分が使用するメガミのカード全て
- 自分が使用するメガミの追加コンポーネント（計略ボードなど）

主催者側が用意できるものがある場合は、申込に際してコメントに記載してください。例えば公式大会では、ボードと桜花結晶は大会側が用意します。

試合中のルール

双掌繚乱のルール

メガミの選択は原則的には以下のいずれかとし、特記ない限りは通常選択とします。それ以外の方法による大会は可能ですが、その場合は申し込みの際にコメントに特記してください。

通常選択

大会の受付時にメガミ2柱を申請します。そして、大会中は常にその2柱を使用します。1試合1回勝負です。

随時選択

大会の試合ごとにメガミを選択します。双方のプレイヤーは秘密裏に選び、同時に公開します。1試合1回勝負です。

簡易神話大戦

この形式の大会は3回戦に限られます。全勝した全てのプレイヤーが優勝と扱われます。

大会の受付時にメガミ6柱を申請します。各試合において、双方のプレイヤーは使用できるメガミから2柱を秘密裏に選び、同時に公開します（この際に、どのメガミが現在使用可能かどうかは見るができます）。そして眼前構築と桜花決闘を行います。1試合1回勝負です。

各試合の勝敗に寄らず、使用したメガミにはチェックが付けられ、以降の試合では使用できなくなります。

団体戦

この形式の大会は団体戦大会に限られます。チームは各プレイヤーに紐付けられた「相棒」にあたるメガミ1柱ずつ計3柱と、その他のメガミ3柱を大会の受付時に申請します。

各試合において、大将は大将と、副将は副将と、三将は三将と対戦します。そして、全プレイヤーは自らの相棒を全て公開します。その後、チーム内で自由に相談し、それぞれの相棒と組

み合わせるメガミを申請した残り3柱の中からチーム内で分配する形で秘密裏に決定してください。決定が終わったら同時に公開します。

大将戦、副将戦、三将戦いずれも1試合1回勝負です。そしてチーム内で2勝したチームが勝者となります。

謝辞：この形式はユーザーの方が考案したのですが、大変すばらしいため公式のレギュレーションに記載させて頂くことにいたしました。この場でお礼申し上げます。

三拾一捨

大会の受付時にメガミ3柱を申請します。双方のプレイヤーは各試合でそれらの3柱を対戦相手に渡します。次に対戦相手から受け取ったタロットから1柱を取り除き、対戦相手へと返します。そして、自分へと帰ってきた2柱を使用します。1試合1回勝負です。

このルールは上級者向けです。各シーズンで行われる大規模大会ではこのルールが採用されません。

神話大戦

大会の受付時にメガミ6柱を申請します。双方のプレイヤーはそれらの6柱から2柱を秘密裏に選び、同時に公開します。そして眼前構築と桜花決闘を行います。

その決闘の勝者は使用した2柱を取り除きます。結果、一方が4柱、もう一方6柱を持った状態になります。続けて双方のプレイヤーは残るメガミから2柱を秘密裏に選び、同時に公開し、同様の決闘を繰り返します。

最終的に、先に3勝し、全てのメガミを取り除いたプレイヤーが勝者となります。

このルールは上級者向けであり、1試合が最大で3時間程度かかります。

試合時間のルール

1試合の時間は40分で、眼前構築5分と、桜花決闘35分となります。

試合前または試合開始から5分以内に限り、審判は特定の試合を時間無制限としても構いません。その際には、その試合に参加しているプレイヤー双方の合意を取ることを推奨します。

眼前構築が残り1分となった時点と、桜花決闘が残り10分となった時点で、審判はアナウンスを行うことが推奨されます。

時間内に眼前構築が終わらなかった場合、使用しているメガミ2柱のカード全てを合わせ、その中から無作為に7枚の通常札と、3枚の切札が選ばれます。

時間内に桜花決闘が終わらなかった場合、延長戦として現在進行中のターンの次のターンまで行い、その時点でライフの多い方が勝者となります。同値の場合はさらに次のターンを行い、ターンの終了時にライフに差が付くまで続けます。

延長戦の時間は大会が一般的であるか競技的であるかで定められます。大会がどちらであるかは審判が決定し、競技的である場合は大会の開始前にその事実が告知されます。特別な告知がなされなかった場合、その大会は一般的です。

一般的な大会の場合

この延長戦は最低でも5分は認められ、審判の裁量でそれ以降も任意の時間まで認められます。延長戦の開始から5分が経過した場合、それ以降の任意の時点で審判は試合を終了させ、どちらか一方の勝利ないしは引き分けとすることができます（原則的にはライフに差が付くまで続けます。試合を終了させるのは、大会の運営に問題が生じるほど時間がかかっている、一方が不当に多くの時間を占有していたなどの理由がある場合のみに限ることを推奨します）。

競技的な大会の場合

この延長戦は最大で5分まで認められます。延長戦の開始から5分が経過した場合、両者の敗北として試合を終了します。このような時間切れが起こった場合に限り、一方のプレイヤーが不当に多くの時間を占有していたなどの理由がある場合、審判は両者を敗北とする代わりにどちらか一方のプレイヤーを勝者とすることができます（判断が付かない場合は両者を敗北とすることを強く推奨します。このような審判の介入を許可しているのは、勝敗が自明な状況で本ルールを悪用することを避けるためのものです）。

試合中に見られるもの

本品ならびに公式サイトで配布されているカードリストを除き、試合中にメモを見ることは認められません。カードの効果を参照するために、対戦相手に断ったうえで実物のカードを見ることは認められています。実物のカードがない場合、審判の立会いの元であれば正確なカードテキストを参照するために Web サイト上のカードリストを見るものが認められます。

投了について

プレイヤーは試合中に投了を行えます。投了を行ったプレイヤーは大会のレギュレーションにより敗北となります。これは大会のレギュレーションとして行われておりますので、総合ルールならびにカードの動作により無効化されることはありません。

投了が後述する勝敗の譲渡にあたる懸念があると本人ならびに他の参加者が感じた場合、必ず審判を呼んで判断を仰いでください。

反則、非紳士的行為、禁止事項について

大会の審判はゲーム中の不当な操作、不当な遅延行為、非紳士的行為に対して、注意ならびに独自の裁定によるゲームへの操作を行うことができます。あるプレイヤーが複数回の注意を受けても改善されない場合、審判はそのプレイヤーを敗北させることができます。

遅延についての尺度を示します。参加者は1ターンの行動を可能な限り5分以内ですべて行ってください。特別な理由なくそれを逸脱し、それを問題視する場合はそのプレイヤーの対戦相手が審判を必ず呼んでください。

勝敗の譲渡や意図した引分は合意の有無を問わず禁止されています。そのような事態が発覚した場合、審判はそれらのプレイヤーを失格とすることができます。

賞品と参加賞

大会の優勝者には以下のうち、期間内のプロモーションタロット1枚ならびに後述する追加の賞品が贈られます。また、16人以上の参加者がいる場合は合計2枚ずつを、32人以上の参加者がいる場合は合計3枚ずつを、勝率に準じた定め方で決められた複数のプレイヤーに配布することができます。

団体戦形式の大会では優勝したチームの全員に贈るため、賞品3枚ずつの配布が認められます。

～2017年5月14日：ヒミカ

2017年5月15日～2017年11月30日：トコヨ

2017年12月1日～2018年6月23日：ユキヒ

2018年6月24日～2018年8月12日：ヒミカ（復刻）

2018年8月17日～2019年6月30日：サイネ

2019年7月1日～2019年7月31日：トコヨ（復刻）

2019年8月1日～9月30日：チカゲ

2019年10月1日～10月31日：トコヨ（復刻）

2019年11月1日～12月31日：ユキヒ（復刻）

2020年1月1日～9月30日：チカゲ

2020年10月1日～11月30日：ヒミカ（再復刻）

2020年10月1日～未定：クルル

さらに『新幕』シリーズの完全戦、季節戦それぞれで追加の賞品が贈呈されます。

完全戦の賞品

2020年3月1日～11月30日：ブラックキラカード「ゆらりび」

2020年12月1日～未定：ブラックキラカード「炎天・紅緋弥香」

季節戦の賞品

2020年2月1日～未定：プロモーション集中力カード「ユリナ」

2020年7月1日～未定：ホワイトキラカード「桜降る代に幕開けを-神語り-」

大会への参加者にはポストカード1枚が贈られます。

主催者の裁量でそれ以外の賞品を出すことは可能です。但し、**BakaFire Party** はそれらの賞品への補助を原則的には行いません。また例外として、プロモーションタロット、プロモーション集中力はその配布が認められたイベントを除いて追加の賞品とすることはできません。

賞品は **BakaFire Party** が主催者に対して、イベントの優勝者や参加者に贈るまでの間、貸与しているものであり、贈与ではありません。大会が成立しない、2枚や3枚の贈呈条件を満たす人数が集まらないなどの理由で賞品が余った場合、**BakaFire Party** にその旨を報告したうえで返送してください。但し、次回大会の開催が計画されている場合は報告の上でご相談いただくことでそちらの大会への流用を可能とします。

参加賞のポストカードはイベントの終了後に余った分は贈与します。不要である場合のみご返送ください。